

PORTFOLIO

ポートフォリオ

—— アダムスのバトン ——



ゾーンシステム研究会

Photographic Society of Zone System

ポートフォリオ

ポートフォリオは、作家が自身の代表作をまとめておき、プレゼンテーションするための作品集を意味します。ゾーンシステム研究会のポートフォリオも、銀塩ファインプリントのクオリティを世に問う作品を彙めたものです。作家が撮影から現像、プリントまですべての工程を自分の手で作り、仕上げています。

写真は現実世界のコピーではなく、人が世界からすくい取ったイメージをプリントという物質に固定するものです。なかでも銀塩写真は、最終作品としてのプリントの美しさばかりでなく、作家がすべてのプロセスを自分の眼と手でコントロールすることが最大の特徴といえるでしょう。

ゾーンシステム研究会は、中島秀雄が川崎市市民ミュージアムで立ち上げたワークショップを機に、1995年にスタートしました。メンバーはアメリカの写真家アンセル・アダムスの会館で学んだ「ゾーンシステム」を学んで技術を深め、翌96年からはほぼ毎年ファインプリントを展示しています。

2005年にカリフォルニアにあるアダムスの暗室を見学し、初めてその作品のすばらしさと、それを生み出した環境に接することが出来ました。その経験も踏まえ、2011年からは自分たちの代表作をポートフォリオという形にする制作活動を継



アンセル・アダムスのアトリエにて
アダムスの子息マイケル氏を囲む
2005年11月

続しています。印刷による複製ではなく、作家が自分のイメージによって創りあげた銀塩プリントを残すという活動は、国内の写真界ではあまり多くないことでしょう。

2025年は研究会の創立から30年となります。この間に写真をめぐる環境も大きく変わりました。

時代が変わっても、私たちは銀塩フィルムと印画紙を使うファインプリントの制作を続けていきます。

2025年8月
中島秀雄

Zone Systemとは

1 ゾーンシステムとは

ゾーンシステムは、白黒ネガフィルムと印画紙を使う「銀塩写真」において、自分が被写体から受けるイメージを的確に印画紙のプリント上に表現するための実践的な手順をしめたものです。

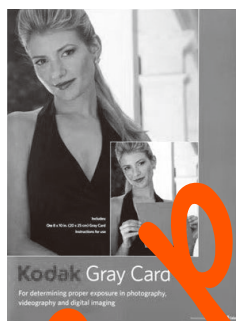
連続的な被写体の階調を10段階の「ゾーン」に区切ることで、階調が印画紙にどのように再現されるかをイメージしやすくなり、撮影から現像・プリントに至るまで一貫してコントロールすることが容易になります。「ゾーン」は、被写体の明るさを相対的に表す値で、平均的な明るさ(露出計の基準)をV(ローマ数字の5)と定め、そこから1EV分明るく(暗く)なれば値が1段階増える(減る)ように決めてあります。ゾーンはEVと混同しないようにローマ数字を使います。

なお、ゾーンシステムの活用にあたっては、常用のフィルムや現像薬品を決め、フィルムの実効感度と現像時間をチューニングする必要があります。(※5に後述)



2 ヴィジュアリゼーション(想定)

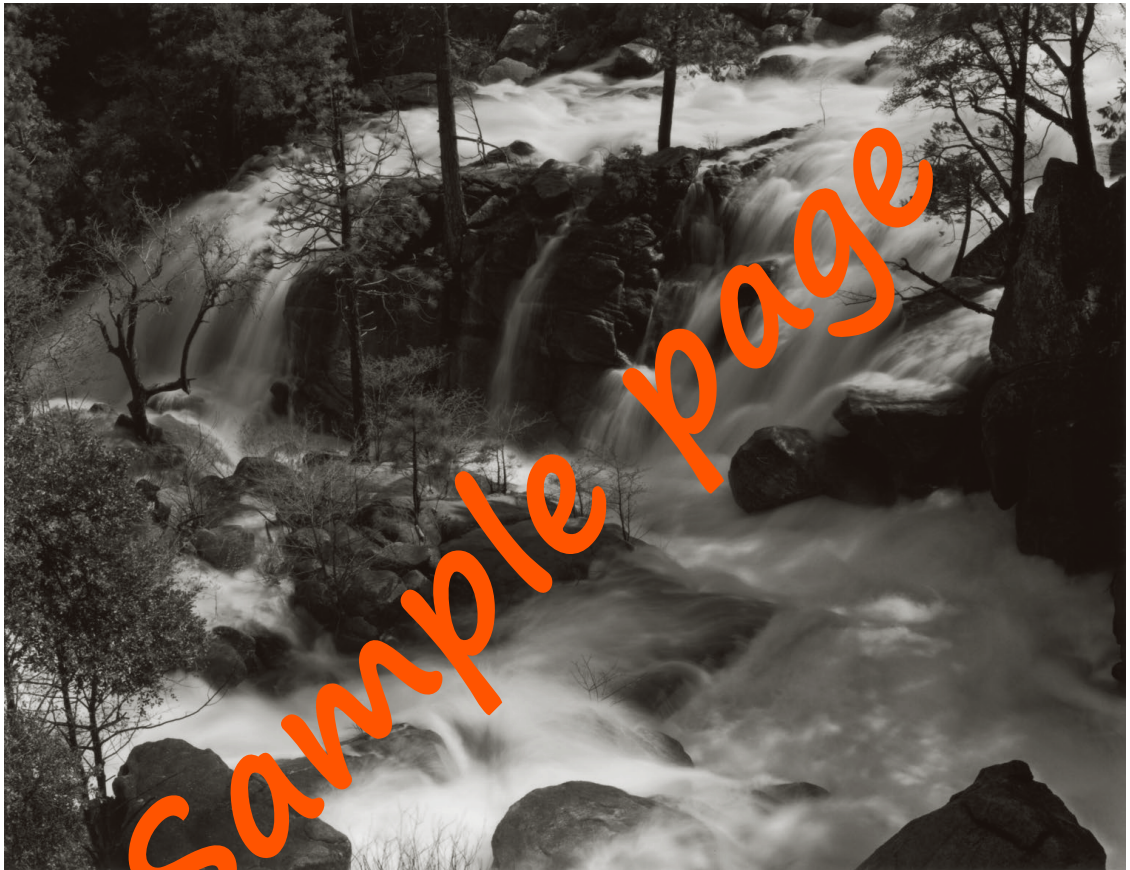
ゾーンシステムの核心は「ヴィジュアリゼーション」にあります。シャッターを押す前に被写体をよく観察し、それぞれのゾーンを印画紙上にどのような階調に表現するか、あらかじめ心算で見て「想定」することを「ヴィジュアリゼーション」と呼びます。その後に各ゾーンをスポット露出計で測定して露出(絞りとシャッター速度)およびフィルム現像の方針を決めます。



Kodakの18%グレーカード

ヴィジュアリゼーションの基準となるのは被写体の平均的な反射率をあらわす「18%グレー」で、これをゾーンV(5)と定義します。市販の18%グレーカードを露出計で測り、そのEVで撮影するとプリントにはグレーが再現されます。ゾーンVから4EV暗い黒がゾーンI(1)すなわち記録できるぎりぎりのシャドウ(暗部)であり、3EV明るいゾーンVIII(8)が印画紙に質感を再現できるハイライトの上限であるとしてプリントをイメージします。初めのうちには小型のグレーカードを持ち歩き、被写体と見比べてゾーンVを確認する練習をすることがよいでしょう。

撮影に先立って最初に想定したイメージをゾーンの各段階に位置付けることで、プリントまでの確かな道しるべとなります。



乱流
橘田 功

I-4



卷雲

中島秀雄

II-1



アーティチョーク

浜野次郎

II-6



Illumination

鈴木知之

III-11